一般社団法人　山梨県介護支援専門員協会広報誌　第22号

# YAMANASHI CAREMANAGER

やまなしケアマネジャー vol.22

発行日　令和2年3月31日

●目　次

第9回地域支部連携研究大会報告 ― 1
頑張っている施設ケアマネ紹介 ― 2
支部活動報告 ― 3
部会活動報告 ― 3
ルーキー紹介 ― 4
包括へのインタビュー ― 4
新事務員紹介 ― 4
事務局より ― 4
編集後記 ― 4

## 第9回地域支部連携研究大会報告

大会実行委員長
宮下 貴文

第9回地域支部連携研究大会は日本ホスピス・在宅ケア研究会の全国大会並びに日本介護支援専門員協会の甲信越ブロック研修会との合同開催として令和元年12月14日、15日の2日間に渡り、富士の麓の富士吉田市にて、ハイランドリゾートホテル＆スパ、富士吉田市民会館の2会場にて大会が行われました。日本ホスピス・在宅ケア研究会の大会規模の大きさに戸惑いながら、シンポジウムや分科会等の企画・立案を実行委員会にて行いました。今までは対象が介護支援専門員だったのに対し、今回は医療・看護・福祉のみでなく一般の方も参加対象となり、実行委員会の中でも考えさせられたことを覚えております。今回のテーマは「ねがい」～富士の麓で我が道をデザインする～と題し開催し、県内外より700名余りの参加を頂きました。基調講演は、鈴木シスターより「生きる」と題して命の話を聞かせていただき、命について考えました。その後、教育講演として在宅医療の歴史を新田先生より頂きました。そして、各シンポジウムや日本ホスピス・在宅ケア研究会主催の部会が同時進行にて行われました。山梨県の看取りを考えるシンポジウムでは、在宅を行っている先生方に現状の看取りの報告を踏まえて山梨県として考える企画があったり、ケアマネ企画である「看取り期における利用者の思いに寄り添うケアマネジャーの本音」では、ACPを含めてその時々にどのように利用者に関わったのか、なぜそうしたのか、何を大切にしたのか等のケアマネジャーの考えを深めながら、その思いを共有するシンポジウムも行われました。今回の大会では、障がい者や障がい児についても考える機会を持ち、小児在宅医療の現状を考えるシンポジウムも企画しました。「障害者支援に対する迷いとジレンマ」と題したシンポジウム企画も考えました。介護支援専門員として、今後障害サービスから介護保険に切り替わる方を担当するときに制度によって考え方の違いや制度の壁が存在します。私たちが制度をよく知り、違いを把握することで利用者さんの力になり、より良い生活を支えていく事ができると考えます。

今回このような大きな大会に関わり、いろいろな視点で考える事ができました。当協会も、山梨県で仕事をしている介護支援専門員の皆さまとともに貴重な時間の共有・体験ができ、今後の仕事にも活かせるのではないかと考えます。次年度は甲信越ブロック研修会と共同開催され、担当は峡北支部となります。来年度も皆さんと一緒に大会を作っていきたいと思います。

## 第9回地域支部連携研究大会で事例発表された方を紹介します。

### 施設ケアマネジャーとして思うこと

介護老人福祉施設　紡木長屋　斉藤　利香

介護支援専門員は、一人ひとりの計画作成のために、面談しその人ができること・できないことを明確にして、できないことへの援助を適正な方法で受けられること、実行されたことの評価により、その人らしさを大切にされているか、心を開いてできることを認められているか・・自分で自問をする日々です。

特養施設では介護生活を長年続けられた家族・本人が選んでこられた終の棲家になることを求められています。

「その人らしく生きることを最後まで支え、逝ききるさまを示してくださる方々」のために私たちは何をしなければならないのか、施設での看取りにこだわり、日常生活を大切に過ごして生きることをチームで支えていきたいという気持ちから演題発表をしました。

施設ケアマネジャーの思いや行動が十分に発信されていないままでは、周囲とつながりを持ったり研修に参加しやすい環境を整えてもらうことも難しく、顔が見える関係をつくって繋がっていくことが資質の向上や行動を増やしていける力になると思います。

### 分科会発表について

介護老人福祉施設　清栄なでしこ荘　浅古　裕昭

①今回発表しようと思った動機は、還暦を過ぎだんだんと老けていく自分に対して「喝」を入れたいと思ったことが一つあります。それは60歳をすぎた人生がどんなに寂しいものになっていくのか不安に感じていた、まだ若い時代に触れた作家五木寛之の作品「林住期」において、人生の最高のステージは“60歳を過ぎてから”という五木寛之氏の想いを知ってから60歳過ぎの人生が楽しみになったことが大きく影響しています。これからまだまだ「やれること」「やりたいこと」は沢山ある。それを一つずつ“やってみる”。それは私がケアプランを作らせていただいている利用者様に“やってもらう”ためには、まず私が“やらなければ”との思いからです。

②発表を終え、ある種の満足感と、また何か不完全燃焼的な物足りなさを覚えました。今回の調査、研究も何か場当たり的なところがあることは否めないということを、私自身が一番承知しているところであり、今後これで調査、研究を終えるのではなく、継続していけるようにと考えています。

施設ケアマネは毎日利用者様と会えて、お話ができることが何といっても魅力だと感じています。利用者様と「心の世界」で対話できるようになりたいと思います。

### 地域支部連携研究大会　分科会発表を終えて

介護老人福祉施設　慈生園　芦川文子

「わずかな時間でもいいから、家に帰りたい」終末期のご本人とご家族の強い思いに私たち施設の職員が心を動かされた、そんな事例を発表させていただきました。

内容はご本人、ご家族の希望に寄り添うことの大切さ、実際にケアを行うスタッフの思いなどです。

大会という大きな場所での発表は初めてで、言いたいことがどれだけ伝えられたかわかりませんが、先輩や同期のケアマネさんからの励ましで、なんとか無事に乗り切ることができてほっとしています。

発表の内容で悩んでいた時、「日々の業務の振り返りの中にこそ、大切なものがある。」とアドバイスをいただきました。ただマニュアルに沿って看取りケアを行うのではなく、関わっている人たちの思いも受け止めながら、ケアマネジメントが展開できるように、ここで最期まで看てもらってよかったと思われる施設になるように、今後も努力していきたいと思います。

### 人生最期まで～その人らしさ100%～を目指したケア

峡西老人保健センター　飯野　葉子

老健での看取りケアを実施して約10年経ちますが、本人の意向「最期は自宅で」を実現できた症例は1件のみでした。様々な家族関係や生活歴、介護者の高齢化や就労等により自宅で看取りを行う事が難しい現実が理由でした。今回の症例でも、主介護者の就労から、自宅で最期を過ごしたい、との意向を実現することはできませんでした。しかし、本人の意向の代弁者であるお孫さんにアプローチしたことで、最期にもう一度家へ外出する事ができました。ご家族と話し合いを繰り返し、できる限り本人の意向に近づけたケアを実践する事は、本人だけでなく遺されたご家族の救いにも繋がるのではないか、と私は考えます。

認知症により自分の意志を伝える事が出来ない方に対しても、施設での看取りであっても、人生最期まで～その人らしさ100%～を目指したケアを多職種協働で実践していきたいと考えています。

# 支部活動報告

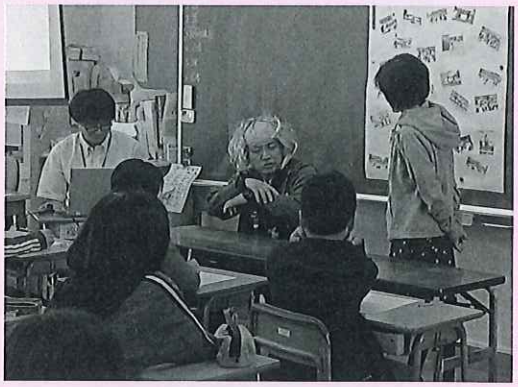
## 峡東支部 小学校・高校への訪問授業開催報告

峡東支部では平成28年度より、地域づくりのひとつとして認知症について正しく理解できる人を増やすと共に、介護支援専門員について幅広い世代に知って頂くことを目的に、峡東地域内の小学校での訪問授業を行っており、令和元年度からは高校にも広げて行っています。

認知症サポーター養成講座のプログラムに沿いながら、バケツとボールを使用して記憶の仕組みを伝えたり、生徒参加型のロールプレイを交え実際の対応方法を分かりやすく伝えると同時に、介護支援専門員の役割や高齢者を支えている仕事についても紹介しています。

終了後のアンケートでは小学校の児童から『ケアマネジャーになりたい。』という回答をいただけたことがありました。高校の生徒からは『福祉といっても様々な仕事があることを知り興味を持った。』『ケアマネジャー、やってみれば面白そう。』といった回答もいただけました。

この活動を今後も広げていき、高齢者にとって住みよい峡東地域を目指していくと共に、介護支援専門員の魅力を発信し続けたいと思います。



### 授業の感想を子供たちからもらいました!!

・お年よりにもっとやさしくしたいと思った。
・にんちしょうの人にあったらこえをかけてあげる。
・パワーポイントのおかげでもっとわかりやすかった
・自分もケアマネージャーになってお年よりをもっとたすけたいと思った
・おじいちゃんとおばあちゃんなど。とたいせつにしたい

・お年寄りが、同じ話をしていたら、話を、と中でさえぎったりしないで相手の顔を見ながら、話を聞いてあげたいと思いました。
・かんごし、ケアマネジャーになりたいと、改めて、思いました。

にんちしょうの人は、とてもこわかったり心はいいなんだってよくわかりました。
お年よりか子供を大切にしてくれるりゆうがよくわかりました。
これからもっとを切にしていきたいです。
ケアマネージャーさんもすごいと思いました。
これからも、がんばってほしいです。

年をとると、びょう気になったり、きん肉がなくなったりしてしまうから、ケアマネジャーは必要なんだなあと思った。

にんちしょうのおじいちゃんおばあちゃんがいたらどうたいようすればいいのかが分かってよかった。
にんちしょうのびょう気になったらいろんなことをわすれてしまうから、わたしたちがおじいちゃんおばあちゃんをささえられればいいです。
ケアマネージャーさんやわたしたちはお年よりにとっては大切なそんざいだと分かった。

# 部会活動報告

## 居宅支援部会

事業所閉鎖や人材不足など、居宅支援事業所の運営は多く課題がある中、介護支援専門員がどの様にして意欲的に仕事が続けられるのか、部会のメンバーで話し合っています。その様な状況下、令和元年度は以下の取り組みを致しました。

**「障害ケアマネジメントや相談支援専門員の理解を深める為の活動」**

令和1年11月2日に相談支援専門員主催のグループワークに参加してきました。相談支援専門員の方が介護保険の理解を深める目的で主催されましたが、私達、介護支援専門員にとっても障害からの移行ケースを踏まえ、大変有意義であり継続した連携が必要と感じました。

**「居宅支援事業所勤務する介護支援専門員へのアンケート調査」**

この度は、アンケートにご協力を賜り、部会一同お礼申し上げます。今回は、事業所や就労状況を中心に実施しました。今後は、結果を踏まえ、居宅支援事業所や介護支援専門員の地域課題を分析しつつ、必要な提言を検討しております。集計結果は、令和2年3月下旬頃、当協会ホームページにて掲載いたします。

## 質の向上研修　STEP1・2

令和元年度の開催は７～８月STEP２に26名、令和２年１～２月STEP１には２５名が受講終了されました。

國光登志子先生の講義、持ち寄り事例の振り返りから始まり、その人らしさを共有しながら「事例検討会」を実践し、学びあいました。検討会では役割分担をし、事例提供者、司会、記録、主任などの役割を皆が経験します。STEP１・２と継続受講により、日ごろの役割、対人援助技術の課題解決につながっています。受講後にはファシリテーターの実践機会として会員の皆様に協力をいただいて、協会会員の実践力アップにつながっています。

今回STEP１では、感染症や積雪のために参加を断念した方があり、「全日程の一部に出席ができない理由」によっては、予備日や補講などの対応を可能とできるのか、事務局として来年度以降開催の課題となりました。

## ルーキー紹介

やさしい手甲府笛吹事業所

### 小田切　千鶴さん

ケアマネを始めて9か月経ちやっと業務にも慣れてきました。この仕事をして感じていたことは、ケアマネも常に新しい情報を収集することが必要であり、変わっていく介護業界の流れに対応していくためには積極的に研修の場に参加して自ら学んでいく姿勢が大事なのだということです。やさしい手では研修の機会やケアマネ同士でお互いにアドバイスをし合う場があるので、初めてケアマネとして業務をするにも安心して行うことが出来ました。今後は在宅でご利用者様が自分らしく生活を続けていくためのケアマネジメントを提供できるよう、研修等にどんどん参加し自己研鑽に励んでいきたいと思います。

## 包括へのインタビュー

# 早川町地域包括支援センター

早川町は、『地域包括支援センター＝福祉保健課』で、福祉保健課職員全員が地域包括支援センター業務と福祉保健課業務を行っています。町民の方は、福祉保健課の方が聞き慣れているので、地域包括支援センターと聞いてもピンとくる人は少ないでしょう。ですが、【子どものこと、障害者のこと、介護のこと、福祉サービスのこと、健康のことなど、とりあえず福祉保健課に相談すれば大丈夫】という体制であることが強みであると思っています。

高齢化率は県内でもトップで、人口も少なく、活用できる社会資源は限られています。しかし、集落内での助け合いや住民同士のつながりは、県内でもトップクラスではないでしょうか。多くの高齢者が夫婦または単身で生活しており、子どもさんたちは別に住んでいます。「元気なうちは早川町で生活できるけれど、自宅で暮らすことが大変になったらどうしよう…」というのが、高齢者やそのご家族の本当ところかもしれません。高齢者のみなさんができるだけ元気に早川町で暮らせるように、そして未来の高齢者が元気に早川町で暮らせるように、子どもから高齢者までの支援をしていきたいと思っています。

## ◆事務局よりお知らせ

①入会または退会を希望される方は、『入会申込書』または『退会届』を提出願います。
②登録内容に変更があった場合は、遅滞なく、『個人会員登録内容変更届』を提出願います。

提 出 先：山梨県介護支援専門員協会 事務局（下記案内欄参照）
提出方法：ＦＡＸまたは郵送
提出用紙：県協会ホームページより印刷できます。できない場合は、事務局までお問い合わせください。

ホームページアドレス♪
http://www.yamanashi-cma.com/

これからも、タイムリーな情報を公開していきますのでご活用ください。

## 事務員紹介

### 薬袋（みない）　光代（みつよ）さん

昨年の10月より事務局で働かせて頂いています。まだまだ不慣れな点が多く、会員の皆様にご迷惑をお掛けしているかと思いますが、少しでもお役に立てるよう、頑張りますので宜しくお願い致します。

## 事務所のご案内


一般社団法人
山梨県介護支援専門員協会

名称 山梨県医師会館　Tel:055-222-1661　Fax:055-222-1671
住所 甲府市徳行5-13-5　E-mail:yamanashi-cma@hop.ocn.ne.jp


## 編集後記

新型コロナウィルスの感染拡大により、今年のお正月には誰も想像してなかった事態が、日本中どころか、世界中で起きています。

様々な不安が頭から離れない日々が続きますが、いつかきっと、「あの時は大変だったよね!」と笑って話せる時が来ると信じて、みんなで力を合わせて、乗り越えていきましょう!